

稲門ボウリング同好会

林 秀 男（稲門弁理士クラブ）

昨年12月11日（木）に開催された第26回日弁ボウリング大会においても、大方の予想通り、稲門弁理士クラブは、団体戦で第5位入賞（日本弁理士クラブは、5つの会派から構成されているので、第5位入賞とは、当然に最下位ということではあるが）という成績に終わってしまった。

私が「日本弁理士クラブ」という団体を初めて意識したのは、登録して1年が過ぎた頃に稲門弁理士クラブから「日弁ボウリング大会のお知らせ」のファックスが送られてきたときではないだろうか。もちろん、その当時、稲門弁理士クラブと日本弁理士クラブとの関係さえもよく理解しておらず、ただ登録年数が若い人は参加費用を補助してもらえするという理由から、この日弁ボウリング大会に参加したのであるが、それから今年で3年連続してこの日弁ボウリング大会に参加しているが、残念ながら、そのすべてにおいて、稲門弁理士クラブは、団体戦第5位入賞という結果に終わっている。

前回の第25回日弁ボウリング大会で、私が参加してから2年連続で稲門弁理士クラブが団体戦第5位入賞となったとき、他の会派のように、ボウリング同好会があり、そのボウリング同好会の活動の一環としてしっかりと練習をすれば、次回こそは団体戦第4位入賞以上を狙えるのではないかと考え、稲門弁理士クラブの幹事会で同好会発足についての議案を検討していただいた。そして、この議案が了承され、私がボウリング同好会の部長として本年度から発足第1年目の活動を始めることとなった。

発足1年目の本年度は、まず、近年の日弁ボウリング大会に参加していた稲門弁理士クラブのメンバーのボウリングのレベルをどのように高めていくかをメインテーマとして取り組んだ。具体的には、ボウリング場で毎週のように開催されているボウリング教室のように、稲門ボウリング同好会のメンバーの練習をプロボウラーに見てもらおうということ

を考えた。既に前年の成績を踏まえて、私自身がいくつかのボウリング場のボウリング教室に参加し、プロボウラーと知り合いになっていたこともあり、そのときに教えていただいたプロボウラーの中から教え方が一番良かったプロボウラーに、同好会の練習を見ていただくよう打診をし、快諾をいただいた。後から分かったことであるが、そのプロボウラーは、当時「スターボウリング」にレギュラー出演していた有名なプロボウラーであった。

本年4月から12月の日弁ボウリング大会の直前までに合計5回の練習会を行い、延べ40人程度のクラブ員に参加をしていただいた。練習の内容は、上述のように、ボウリング教室そのもので、プロボウラーが待機しているレーンに一人ずつ呼ばれて、投球フォーム、立ち位置、狙い所などをマンツーマンで教えてもらうというものであった。

現在、ボウリング同好会の構成員は、約15名までになっており、特に、稲門弁理士クラブの若手に多く参加をしていただいています。少なくとも日弁ボウリング大会で団体戦第5位入賞を脱出するまでは、稲門ボウリング同好会は、このようなボウリング教室形式の練習を続けていきたいと考えています。そのため、ボウリング同好会の練習に今まで参加することがない稲門弁理士クラブのクラブ員の参加を心よりお待ちしております。また、他会派のボウリング同好会とも、共同で練習会を開催したり、対抗戦などを開催したりできればと考えておりますので、今後とも稲門ボウリング同好会を宜しくお願い申し上げます。

最後に、日本弁理士クラブが開催しているボウリング大会などのレクレーション活動を通して、新しく私達の仲間になられる新人弁理士や他会派の多くの先生方と交流し、そのような交流によって多くの先生が会派活動や日本弁理士会の会務などにも積極的に参加していただければと考えております。